

多文化コミュニケーション入門Ⅱ レポート

工学資源学部 - 環境応用化学科

学籍番号:7512151

名前: ホアン ティー スーン

2013/01/28

秋田のベトナム留学生と私

グループ番号: B1

名前: ホアン ティー スーン

1、紹介文

今、私にとって大切なコミュニティは秋田でのベトナム留学生である。なぜかという私の今の楽しくちゃんと生活ができてるのは先輩たちがいろいろ手伝って、応援してくれたおかげであったからである。

母国のベトナムを離れて、外国に行ったのは日本が始めてであった。それで日本は私の第二故郷であり、特に秋田は私にとって一番親しく感じる場所であった。最初、来たばかりの頃、いろいろ困ったことなどがあつた。にぎやかな道で迷ったり、アルバイトを探すのが大変だったり、食べ物が合わなくて困ったり、遠いところに一人で怖かった。しかし困ったことだけでなく、ここでたくさんできこともあつた。秋田では自分の夢を実現するため、毎日勉強し、練習する秋田大学があり、そして生活するため、アルバイトをするところがある。それらのところでたくさんの日本人の友達ができたし、いろいろ教えてくれたり、応援してくれたりする先生方々と先輩たちがいる。また、そこでは日本文化や習慣を勉強し、ベトナムの習慣などを日本人の友達やほかの国から来た留学生たちに伝えることができた。

秋田でのベトナム留学生は、今年は33人になった。私にとってとても大切な人々である。秋田に受験に来たとき全然会ったことない先輩たちが駅まで迎えに来て、いろいろアドバイスやお勧めを教えてくれた。そして、秋田に来たばかりのころ、住むところを決めなかったとき、泊めさせて、美味しいご飯を作ってくれた。初めて秋田の冬が暖かく過ごせた。そして積極的に買い物のところや学校を紹介したり、教えたりしてくれてとても感動した。秋田ではもう半年くらいみんなと一緒に勉強したり、生活したりしていた間、たくさんの活動があつた。決まっていなくても、暇なときに皆で集まって、料理を作って、楽しい小さいパーティーをやっていた。それから毎月誕生日パーティー、女性の日にもプレゼントを準備してくれた。学園祭に皆でベトナム料理の店を作って楽しんでた。

家族を離れてから、寂しかったが、友達がいるのでよかったと思う。これからも一緒に仲良く活動していきたいと思う。

2、インタビュー相手

今度、インタビュー相手として秋田のベトナム留学生のチンティータンさんを選んだ。なぜかというチンティータンさんはずっと私と一緒にいる友人だからである。ベトナムにいるときから日本語学校に会って、一緒に日本語を勉強したり、そして一緒に日本に来て、一緒に暮らしたり、広島日本語学校で一緒に勉強したりした。それから一緒に秋田大学を受験して、合格して、今も隣に住んでいる。いつも一緒に勉強したり、活動したり、一緒に笑ったり、泣いたりしていたチンティータンさんがインタビュー相手として一番だと思う。

チンティータンさんに対して私はいろいろな印象があつた。まず、外見から見ると私と似ているとよく言われるし、よく一緒にいるから時々間違っって呼ばれたことがいっぱいあつた。そして、性格にも似ている点があつた。一緒に話したり遊んだりするときは面白くて楽しかった。

3、インタビュー結果

11月16日にチンティータンさんをインタビュー相手にすることを決めてから、チンティータンさんに会って、このことを伝えて、協力してもらった。

11月20日の夜、チンティータンさん部屋で約1時間いろいろ話したりした。良かったことはチンティータンさんも私と同じで、今秋田のベトナム留学生が一番大切なコミュニティだということである。なぜかと聞いた結果、チンティータンさんは家族と離れて、とても心配で寂しかった。しかし、友達がいる、毎日一緒に楽しく勉強したり活動したりできてよかったそうだ。日本に来て、スーンちゃん（私です）がいつも隣にいてくれるのでとてもありがたい。特に秋田に来てからベトナム留学生が30人以上もいて、まるまるベトナムにいてる感じがするのでとても嬉しかったそうだ。秋田に来たばかりの頃、先輩が積極的に教えてくれたりして、慣れるまでにいろいろ案内してくれたそうだ。毎日昼休みの間、できるだけ学校の食堂でみんなで集まって食事をしたり、しゃべったりして、家族のように毎日暖かく過ごすことができるそうだ。ここまでやはりベトナム人の私たちにとってこのコミュニティは家族のようで、一緒にいるときは楽しく暖かく毎日を送ることができる場所である。一番印象が残った事について聞くとみんな全員で集まって、学校の文化祭でベトナム料理の店を開いて販売したことだと答えた。全く私と同じだった。私たちが秋田に来て今は一年目で、初めて多くの先輩たちと仲良くて、楽しく料理を準備したり、販売したりしたこと、それから、一緒に遊んだり、いっぱい写真を撮ったりしたこと、そして、ちょうど10月20日ベトナムで女性の日だったので男性の先輩たちがこっそり花を準備して女性の私たちにくれたこと、またみんなで飲み会を開いて楽しく過ごしたこと。。。全てとてもいい記念になり、いつまでも忘れられないと私たちはそう思っている。これからまたみんなで仲良く、楽しく毎日を送っていきたい。また集まって、鍋とかをやりたい。そしてもっともっとメンバーを増やしたいから、ほかのところからの後輩たちに勧めて秋田に来るように、みんなで一緒に頑張っている。

来年から私たちも先輩になるので、その時も、先輩として、前の先輩のように、分かることを後輩たちに勧めたり、案内したりしてあげようと私たちは思っている。一メンバーとして、責任をもってこの大家族をやり続けたいと思い、もっともっとたくさんの活動をやろうと考えている。

今度みんなで忘年会をやるのを楽しみにしている。またたくさんのいい記念を作ろうと考えている。

4、秋田のベトナム留学生と私

母国のベトナムに離れて、家族の近くにいないのでとても心配で寂しかった。しかし、秋田に来て初めて、第二の家族の暖かさを感じることができた。それはここのベトナム留学生（自分の先輩たち）に会って初めてもらった。そういうわけで、私にとって秋田のベトナム留学生が家族のように大切に、今の私の一番大切なコミュニティである。

インタビューの結果から分かるように、良かったことはほとんどのチンティータンさんの意見は私の意見と同じであることだ。秋田のベトナム留学生は私たちの家族で、うれしいことも、悲しいことも分かち合う。いつも私のそばにいてるので、安心感をもらい、そして秋田の寒さのなかに暖かく過ごせることができています。

しかし、雄一の違いがあった。これから、たくさんの後輩が来て、家族の人数がどんどん増えてほしいという私の意見に反対して、チンティータンがあまり増えるとよくないという意見があった。このことについて二人とももう一度考えてみた。たしかに人数が増えると、いろいろな活動がにぎやかになり、楽しくなる。しかし、あまりにも増えるといろいろな複雑なことが生じてくる可能性が高い。たとえば、人数が多いから管理するには難しい。人数が多いから意見もいろいろあって、意見を合わす時に大変だ。また意見不同で仲が裂かれる可能性がある。そして中の競争が激しくなるということが分かってきた。

これからもこの家族を一番大切なコミュニティとして守っていきたいと思う。みんなでたくさんの大切な記念を作っていきたいと思う。私だけでなく、家族のみんなにとってもこのコミュニティが大切なコミュニティであることをみんなを感じてほしい。

今年の後輩が受験しに来る時にも先輩として案内したりしてあげようと思う。後輩たちにこのコミュニティの暖かさを伝えようと考えている。

5、クラスについての感想（改善を希望する点）

多文化コミュニケーション入門Ⅱの授業に参加してよかったと思います。ほかの授業と違って、じっと先生の話聞くのではなく、大分の時間に学生が活動することがとてもよかったと思います。また、お弁当を食べながら、授業をやるのも初めてでしたが、最初はあまり効果的ではないと思いましたが、慣れてきてから面白くていい方法だと思います。みんなと一緒に食べながら、授業についても話すことができたし、食多文化も交流することもできました。そして、授業で散歩に行くのもこの授業で初めてですが、とても楽しくていろいろないい記念を作ることができてよかったです。

しかし一つの改善してほしいことがあります。授業でレポートを読むのが時間がかかりますから、レポートを書いた人が自分のレポートをまとめて、クラスで話してから、みんなからのコメントを聞くのはあまり時間がかからないし、クラスみんなの集中度をさせることができると思います。